

和歌山病院での実習を終えて



小林 杏輔

この度、呼吸器内科の臨床実習の一環として和歌山病院で実習をさせていただきました。なかでも最も印象に残ったのが南方院長の胸部レントゲンの見方についての講義です。私は今までレントゲンに対する苦手意識があり、理解しようと勉強しても何を覚えたらいいのかわからず諦めていました。しかし南方院長の講義を聞き、そもそも自分の勉強の仕方が間違っていたことに気が付きました。「覚えるのではなく、自分で考えて理解する。そして自然と覚えられる。」なるほどその通りだと思いました。南方院長の講義ではレントゲンはどのようなものが白く映り、黒く映るか、またどのようなときにレントゲン上に線ができるかを私たちに考えさせることによって理解させてくれました。すると今までレントゲンに映っているのが何なのかわからなかったものが私にも見ることができました。苦手意識のせいで今まで自分でレントゲンを読もうと積極的には行ってこなかった私ですが、この講義を聞いた後では自分で読もうと思えるようになりました。

また実習では駿田副院長による結核の講義と結核病棟の見学もさせていただきました。結核についての講義では、自分で勉強するだけでは覚えるだけになってしまっていた知識に関して、どうしてそうなるのかを教えて頂き、とても理解が進みました。また結核病棟では、部屋の中が陰圧になっていることなどは知っていましたが、それを目で見るのは初めてだったのでとても貴重な機会になりました。

2日間と短い期間ではありましたが、和歌山病院では普段大学では経験できないような貴重な経験をさせていただきました。最後になりましたが、南方院長はじめ、駿田副院長、お世話になりましたスタッフ方、このような機会を頂きましたことを心より御礼申し上げます。